

高梁川流域キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集

りょうかん
良寛

新高総早 倉 矢井浅里笠
見梁社島 敷 掛原口庄岡
市市市町 市 町市市町市

★ かつやく とし
活躍した年:

1758~1831年

★ かつやく ぶんや
活躍した分野:

そうりよ かしん
僧侶、歌人

★ ぼしょ
ゆかりのある場所:

えんつうじ
・円通寺



りょうかん ほうれき

良寛は、宝暦8（1758）年、今の新潟県出雲崎町に生まれました。

11才の明和5（1768）年から数年間、三峰館という大森子陽（北越の四大儒の一人

とたたえられた漢学者）の塾で漢学の基礎を学びました。

名主である父の見習いとして始めた仕事に失敗し、大きな挫折を経験した良寛は18才の

安永4（1775）年に突然家出し、子供の頃に勉学にはげんだ曹洞宗光照寺で修行をし

ました。その時に「良寛」と号し（名乗り）ました。

安永8（1779）年、円通寺の国仙和尚が越後を教え説いてめぐり歩いていたときに光

照寺へも立ち寄りしましたが、良寛は国仙を「生涯の師」と定め、国仙とともに玉島へ移り

ました。以後、10数年間の厳しい修行に耐え、寛政2（1790）年、国仙より僧侶の資格を

もらいましたが、寺の住職となることをよしとせず、74才で生涯を終えるまで托鉢僧とし

て過ごしました。

漢詩人、和歌作者としても、漢詩約450首、和歌は1400首あまりが知られ日本を代

表する詩人といわれています。

良寛は子供の純真な心こそが誠の仏の心として、子供との交流を欠かしてはしませんが、

特に手毬は常に懐へ入れて持ち歩いていたそうで、良寛を象徴するアイテムともいえます。

難しい説法を民衆に対しては行わず、自らの質素な生活を示す事や簡単な言葉によって一

般庶民に解り易く仏法を説く一方で、子どもたちを愛し、いっしょに遊ぶその姿勢は、たく

さんの人々の共感や信頼を得ることになり、今でも子どもから大人まで「良寛さん」と親し

まれ尊敬されています。